



水陸両用バスツアーに招待



4月25日(月)、水陸両用バス導入協議会は、27日からの運行開始に先立って、震災で市内に避難している25名を湯西川の水陸両用バスツアーに招待しました。

この日は、途中からみぞれ混じりの雨でしたが、夫婦で参加した原田伸子さん(福島県富岡町)は、「湖への入水は迫力があり、貴重な体験ができて感謝しています」と、感想を聞かせてくれました。

なお、水陸両用バスは12月11日まで運行されます。

東日本大震災四十九日法要 ・護摩祈禱



4月28日(木)、日光山輪王寺の大護摩堂で東日本大震災の犠牲者の冥福などを祈念する特別法要が行われました。この日は地震発生から49日目にあたり、法要には約430名の方が参列、亡くなられた方々のご冥福を祈りました。

また引き続き行われた護摩祈禱では、参列者が配られた護摩木に、被災地復興などの願い事を書いて祈願しました。

ニュートンのリンゴ譲渡式と植樹式

4月15日(金)、上三依水生植物園でニュートンのリンゴ譲渡式と植樹式が行われました。

ニュートンといえば万有引力の法則を発見したという逸話で有名ですが、園に植樹されたリンゴの木は、ニュートンの郷里の庭に植えてあった木の5代目で、長野県大町市の財団法人大町エネルギー博物館から譲り受けたものです。



「私たちはリンゴ園を営んでいますが、ニュートンのリンゴを見るのは初めてです。これからどんな花が咲き、どんな実がなるのか楽しみです」と話してくれました。

園では今後、来園者による受粉やリンゴの収穫などを企画中で、子どもたちが植物や科学に関心を持つきっかけにしてほしいとのことです。なお、園内では11月30日まで四季折々の草花が楽しめます。

鬼怒川・川治温泉観光元氣イベント

4月24日(日)、鬼怒川温泉駅前広場で、鬼怒川・川治温泉観光元氣イベントが開催されました。

鬼怒川・川治温泉から元氣を発信することを目的に、「がんばろう日本」を掲げ、龍王太鼓やよさこい音頭パレードなどが次々と披露されました。また、お汁粉の無料配布や、風船のプレゼントなども行われ、それぞれのコーナーには長い列ができていました。



鬼怒川温泉のキャラクターや着物姿のきぬ姫・藤娘が登場すると、観光客の皆さんは、思い思いに記念撮影を楽しんでいました。さらに宿の宿泊券などが当たる抽選会も行われ、イベントは晴れ渡る青空の下、大いに盛り上がりました。

会場には東日本大震災の募金箱が設置され、多くの皆さんにご協力いただきました。集まったお金は被災地へと送られます。

戦場ヶ原カエルウォーク

4月29日(金・祝)から5月5日(木・祝)にかけて、日光自然博物館が主催する、戦場ヶ原カエルウォークが開催されました。

これは、日光自然博物館職員の解説を聞きながら、カラマツの芽吹きや渡ってきたばかりの夏鳥などを観察し、アズマヒキガエルの産卵行動(ガマ合戦)が見られる場所



所を目指して、戦場ヶ原をハイキングする自然体験イベントです。

5月3日(火・祝)に参加した今泉俊太郎くん(宇都宮市)は、「オタマジャクシや卵しか見つけられなかったけど、サルノコシカケなどのいろいろなキノコを見ることができてよかったです」と話してくれました。



今月の表紙

春の植樹デー



今年で16年目を迎える春の植樹デーが、4月23日(土)・24日(日)、足尾町松木地区で開催されました。

取材に訪れた23日は朝から雨。時折、雨が激しく降る悪天候でしたが、県内外から集まった約400名が、ケヤキやモミジ、クヌギなどの苗木2,300本を植えました。

表紙を飾った今井蒼人くん(小山市)は、お父さんと参加。「今日は早起きだったけど、楽しかったです」と笑顔で答えてくれました。

午後からは、銅親水公園内に建立された立松和平顕彰碑の除幕式が行われました。参加者は、立松氏の「渡良瀬の清らき夢がここにあり」という言葉が刻まれた顕彰碑の前で、緑の再生を目指して活動することをあらためて誓いました。

そして除幕式後は、ボランティアとして参加していた県立明峰高等学校の生徒たちが、顕彰碑を囲み、立松氏が作詞したという校歌を披露しました。

この2日間で950名が参加し、5,800本の苗木が植えられました。

